

〔学術大会終了挨拶〕

## 北海道医療大学歯学会 第42回学術大会・定例講演会の報告

北海道医療大学歯学会  
第42回学術大会  
大会長 奥村 一彦

過日、令和6年3月2日(土)に北海道医療大学サテライトキャンパス（札幌駅前アスティ45,12F）で、第42回学術大会・定例講演会を開催いたしました。コロナ禍を経験し社会も様々な場面で変化を余儀なくされ、Zoomを併用したハイブリット授業や配信授業の録画により、学生が復習できるという利点が生まれました。さらに、さまざまな学会でも、現地対面開催とともにWeb開催とオンデマンド配信が定番となりつつあります。やはり、第一は対面で討論を進められ発展性が望めるところではありますが、Web開催やオンデマンド配信は、多様性の観点からは、育児休暇中の方達の参加を妨げない、さらにオンデマンド配信は個人の時間に合わせて視聴することができるという利点があります。結果的に、学会の参加人数は増加する可能性があります。過去の歴史を振り返れば、新たな感染症のパンデミックは、技術革新につながり、過去と現在は、構造的に様変わりしてきました。

新型コロナウイルス感染症は、昨年5月から2類から5類感染症に移行し、ようやく社会も落ち着き始めましたが、現在でもコロナ感染症は潜んでおり、我々医療従事者は医療を支える貴重なリソースであることから、これからも注意を怠るべきではありません。前置きが長くなりましたが、昨年の第41回学術大会・大会長の越野先生から引き継ぎ、Zoom開催とのハイブリットの学術大会を行いました。おかげさまで、参加人数も上向きとなりほっとしたところです。

学術大会では、一般演題12題と昨年度よりは若干少ない状態でしたが、対面での参加者も多かったことから、活発な討論がなされました。いつも参加して発表していただいている同窓の先生も、前と変わらず顔をみせていただきました。また、定例講演会は、北海道大学歯学研究院・生体材料工学教室教授の吉田晴弘先生に「思い込みを捨てよう！若手が創る未来歯科医療」と題して、ご講演をいただきました。お話しいただいた内容は、とても刺激的で研究意欲を奮い立たせるものでした。「思い込みは捨てよう！」、「無理と決めつけて、何も手を付けられないことが一番問題だ」、「常に現在を分析し、前に進むこと」若手の先生にエールを送る講演でした。吉田先生は広島大学のご卒業で、後輩にあたる本学の志茂 剛先生のご配慮により実現しました。

今回を含めた運営の基盤を築いていただいた越野先生をはじめ、組織再建口腔外科学分野と顎顔面口腔外科学分野の教員の皆様もお手伝いをいただき、無事、盛会に終えることができたことを感謝申し上げる次第です。

最後に次期大会長の舞田先生からご挨拶をいただきました。来年もこの学術大会が継続して、たくさんの参加者で盛り上がることをお祈りします。

